



国立大学法人

東京医科歯科大学

TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

法人番号 23

# 令和5年度自己点検・評価報告書

令和6年7月

国立大学法人

東京医科歯科大学

## ○大学の概要

### (1) 現況

#### ① 大学名

国立大学法人東京医科歯科大学

#### ② 所在地

湯島地区（本部所在地）	東京都文京区
駿河台地区	東京都千代田区
国府台地区	千葉県市川市

#### ③ 役員の状況

学長：田中 雄二郎（令和2年4月1日～令和8年3月31日）  
理事：8名（常勤6名、非常勤2名）  
監事：2名（常勤1名、非常勤1名）

#### ④ 学部等の構成

学 部：医学部、歯学部  
研 究 科：医歯学総合研究科、保健衛生学研究科、  
附置研究所：生体材料工学研究所※、難治疾患研究所※  
※は、共同利用・共同研究拠点に認定された附置研究所を示す。

#### ⑤ 学生数及び教職員数（令和5年5月1日現在）

学部学生：1,466名（12名）（ ）内は、留学生を内数で示す。  
大学院生：1,462名（321名）  
教 員 数：862名  
職 員 数：2,254名

### (2) 第4期中期目標・中期計画 前文

東京医科歯科大学は、「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」という基本理念の下に、教育・研究・医療の充実と機能強化を図ってきた。令和10年に創立100周年を控える第4期中期目標・中期計画期間においては、本学は指定国立大学法人として臨床医学を基盤とする世界に冠たる医療系総合大学への飛躍を目指し、以下の重点目標を掲げる。

1) SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）及び Society 5.0（仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会）に象徴される現代社会の潮流を意識しつつ、医療系総合大学の特色と強みを活かして得られた教育・研究・臨床の成果を広く社会に還元することを第一の目標とする。

2) 先導的な医療を担うサイエンティフィック・クリニシャン（科学的な視点で診療ができる医療人）を育成する教育体系及び環境を整備するとともに、医学研究を先導し牽引するクリニシャン・サイエンティスト（臨症的な視点をもった研究者）の育成に挑戦する。

3) 「トランスレーショナル・リサーチ（橋渡し研究）」に焦点を当て、学内の研究と臨床の連携を促進させる。次世代医療に繋がる先進的かつ特色のある基礎・臨床研究を行い、世界屈指の「トータル・ヘルスケア」研究の拠点確立を目指す。

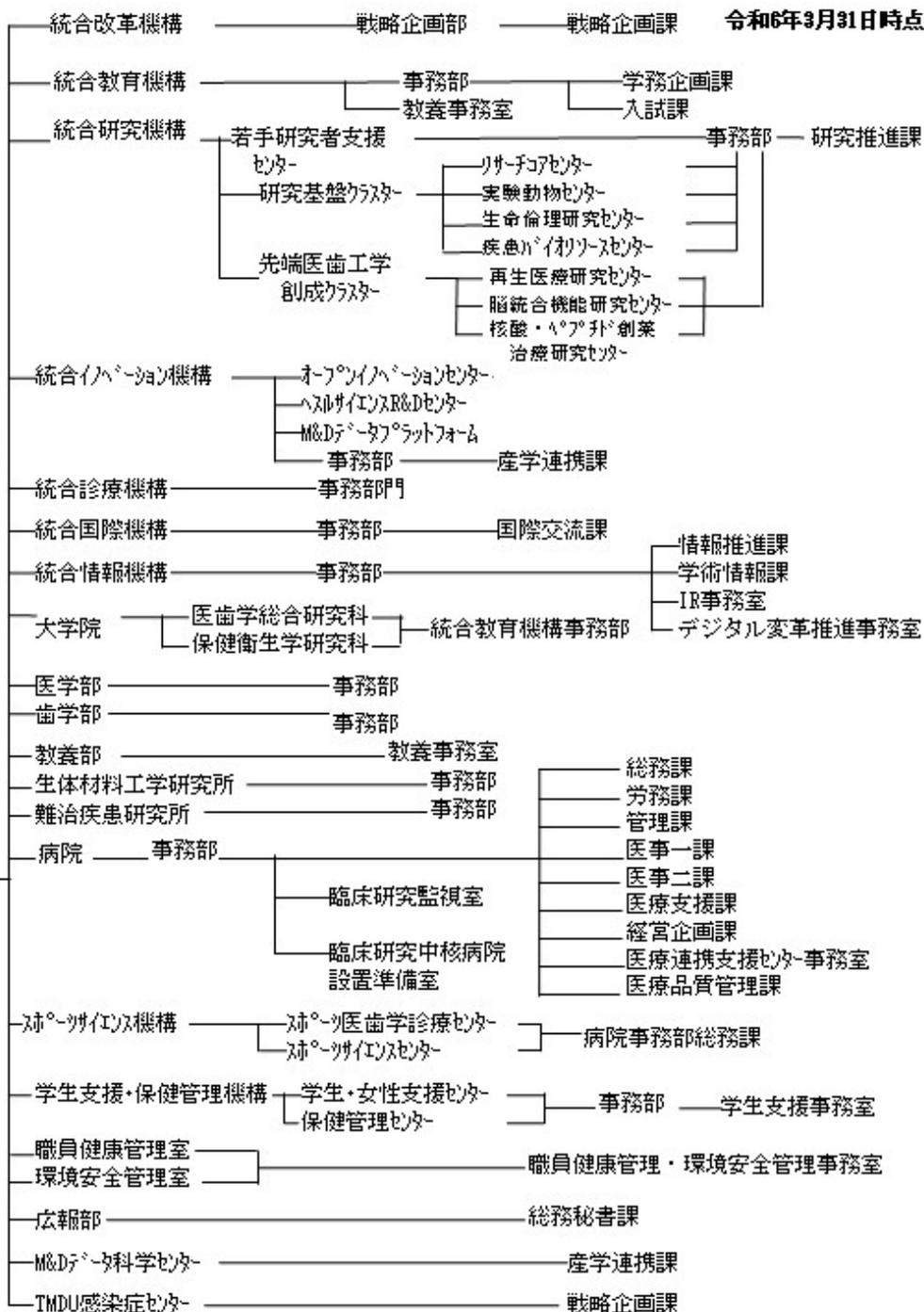
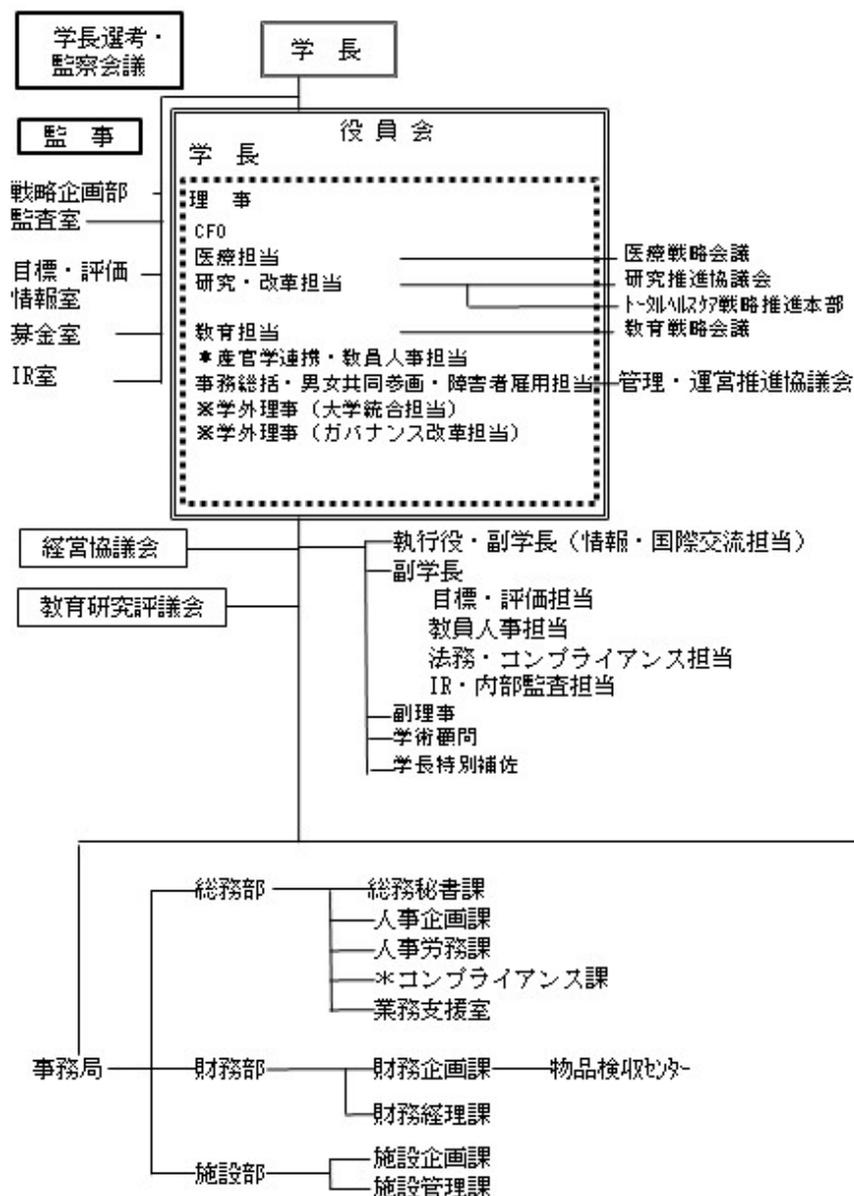
4) 新型コロナウイルス感染症への対応経験を活かし、パンデミック等の非常時の迅速かつ柔軟な医療及び先端的な研究を基盤とした平時の最高水準の診療の両立を可能とする強靱な医療体制を構築する。

5) 四大学連合（東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学）をはじめとした大学間連携及び産業界を含む官民連携を活かし、首都圏における医学教育・研究・臨床のネットワークを拡充する。そこに集約される叡智の成果を広く国内外に提供・発信するべく「トータル・ヘルスケア」拠点の機能を強化する。

6) 構成員が互いに「多様性と包摂性」を重視し、各自が多様な能力を高めつつ「自律と協調」を発揮することにより、構成員の総力を挙げて未来社会の創造に貢献する大学運営を行う。

【令和5年度】

令和6年3月31日時点



※は令和5年度に新たに設置した組織、役職等を示す。  
\*は令和5年度に変更した組織、役職等を示す。

# 指定国立大学法人構想 K P I

要素	項目		現状 (2019年度)	第4期終了時 (2027年度)	第5期終了時 (2033年度)
研究力強化	1	ハブ海外協定校数 ※累計の実績	3大陸/4校	4大陸/7校	5大陸/10校
	2	国際共著論文比率 ※直近5年分の平均値	21.9%	30%	40%
	3	Top10%論文数 ※直近5年分の平均値	201本	1.25倍	2倍
	4	(国内外の)卓越大学の教員としてはばたく若手研究者 ※累計の実績	–	25名	50名
人材育成	5	卓越学生へのインセンティブ付与 ※単年度実績	–	5名	10名
	6	大学発ベンチャー ※累計の実績	5社	20社	50社
国際協働	/	ハブ海外協定校数 (再掲) ※累計の実績	3大陸/4校	4大陸/7校	5大陸/10校
	/	国際共著論文比率 (再掲) ※直近5年分の平均値	21.9%	30%	40%
ガバナンス	7	海外向けプレスリリース ※単年度実績	15件	30件	60件
社会連携	8	民間資金収入 ※単年度実績	17億円	22億円	27億円
財務基盤強化	9	基金の募金額 ※累計の実績	2.8億円	17億円	24億円
	/	大学発ベンチャー (再掲) ※累計の実績	5社	20社	50社

**（1）人材育成・獲得**

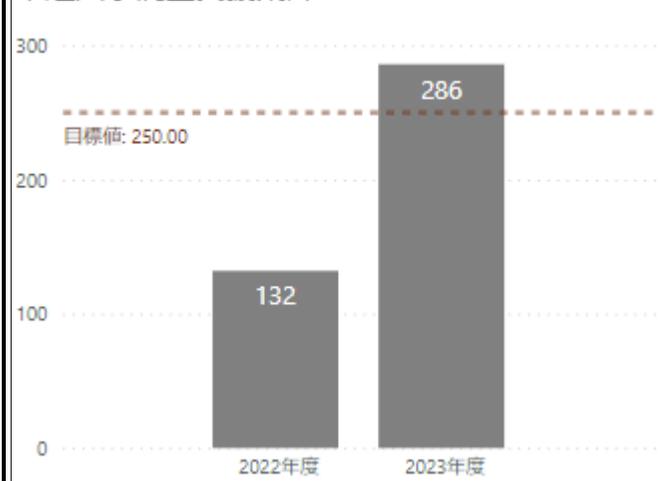
**【卓越大学院生へのインセンティブ付与】※第4期目標値達成済み**

大学フェローシップ創設事業および次世代研究者挑戦的研究プログラムの採択により TMDU 卓越大学院生制度運営委員会および同選考委員会を組織し、博士課程在籍者のうち TMDU 卓越大学院生 I として大学院生 18 名、TMDU 卓越大学院生 II として大学院生 136 名を新規に採用した。卓越大学院生には生活費月額 16 万円と研究費年額 50 万円を支給し、さらに卓越博士賞、海外活動支援、国内研究室活動支援、英語校正支援、英語論文掲載支援、共同研究支援として研究費を増額することにより主体的な研究活動を促進した。また研究スキルの向上やキャリアパスの形成などの各種セミナーへの参加を促し、研究発表や学術交流の場となるリトリート合宿も開催した。令和6年度以降も後継事業に採択され継続している。

**指定国立大学法人構想における評価指標**

第4期中期目標期間終了時目標値	5名
令和5年度実績値	154名

**卓越大学院生支援累計**



参考：第4期中期目標・中期計画重要評価指標モニタリンググラフ

**【大学発ベンチャー】※第4期目標値に向けて予定を越える進捗**

教職員や学生の起業マインドを醸成するため、学内のコミュニケーションアプリを用いて、本学の起業マインドセミナー参加者へ Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE) や東京都の取組を紹介するとともに、起業に向けた具体的な支援メニューの活用を促す取組も行っている。また、日本経済団体連合会での田中 中学長の講演や、アジア最大級のパートナーリングイベントである BioJapan へ出展等により、本学の産学連携に関する取組をアピールしている。加えて、令和6年度からは、学内の各専門分野のメンターを置き、必要に応じて実践的なメンタリングを受けられるよう、制度を拡充する予定である。

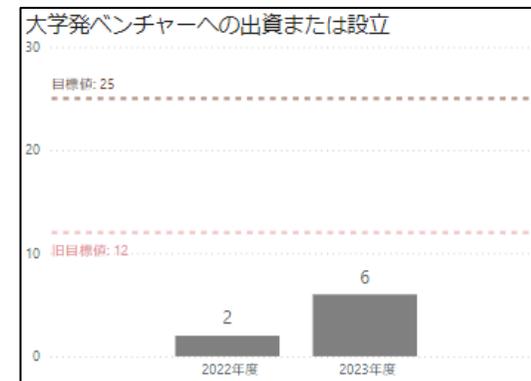
このような学内の起業に向けたマインド養成や支援に係る取組の実施により、今年度は、大学発ベンチャーを4社新たに設立している。

**指定国立大学法人構想における評価指標**

第4期中期目標期間終了時目標値	20社
令和5年度までの累積値	13社

○第4期目標達成に向けた今後の方向性

既存の取組をさらに強化することに加えて、令和6年度からは、学内の各専門分野のメンターを置き、必要に応じて実践的なメンタリングを受けられるよう制度を拡充する予定である。このような学内の起業に向けたマインド養成や支援に係る取組の実施により、より多くの教職員や学生が起業に興味を持ち、具体的な行動を起こすきっかけを作ることを目指している。



参考：第4期中期目標・中期計画重要評価指標モニタリンググラフ

## (2) 研究力強化

### 【国際共著論文比率】

【Top10%論文（出版物）数】※第4期目標値に向けて順調に進捗

異分野の研究者の情報交換や親睦を深めることを目的として、毎月第4水曜日に「Meetup」（研究者交流会）を開催し、優秀な論文作成を促進した。加えて、若手研究者支援では、特に将来の研究者の基軸となり得る「卓越大学院生」に対して、海外での研究発表やラボ見学に加え、今年度より新たに研究論文の英訳校正や掲載費の金銭的支援も行っている。

その他に、令和6年10月の東京工業大学との統合を見据えて、両大学の卓越した研究を報告する機会や、共同研究促進を目的とした「マッチングファン」による研究資金の支援等により、医歯工連携の活発化を図っている。

このような取組により、国際共著論文の令和5年度（直近5年の平均）は26.23%（485報）、被引用数Top10%論文（出版物）数は209報となり、平成30年度の201報と比して1.09倍となっている。なお、被引用数Top10%論文（出版物）数の直近2年の値はScivalからの出力時期により、数値の変動が大きくなる傾向があるため、参考値となる。

### ○第4期目標達成に向けた今後の方向性

今後は、ハブ海外協定校を増加し、研究者の相互訪問や共同研究の開始をさらに促進する予定である。さらに、若手研究者の海外研究活動を増やすためのサバティカル制度などの取組を進め、海外とのクロスアポイント研究を行う研究者を増やす等、国際共同研究の拡大を図る方針である。

※国際共著論文比率（直近5年の平均）

指定国立大学法人構想における評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	30%
令和5年度実績値	26.23%

※Top10%論文（出版物）数（直近5年の平均）

指定国立大学法人構想における評価指標

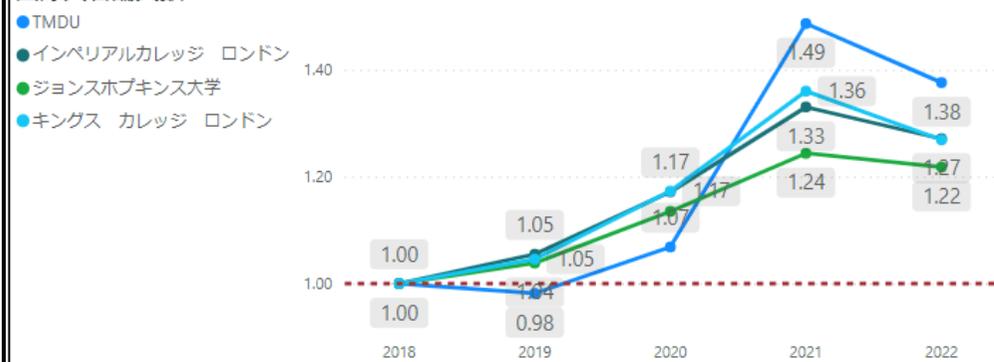
第4期中期目標期間終了時目標値	1.25倍
令和5年度実績値	1.09倍

※国際ベンチマーク大学との比較

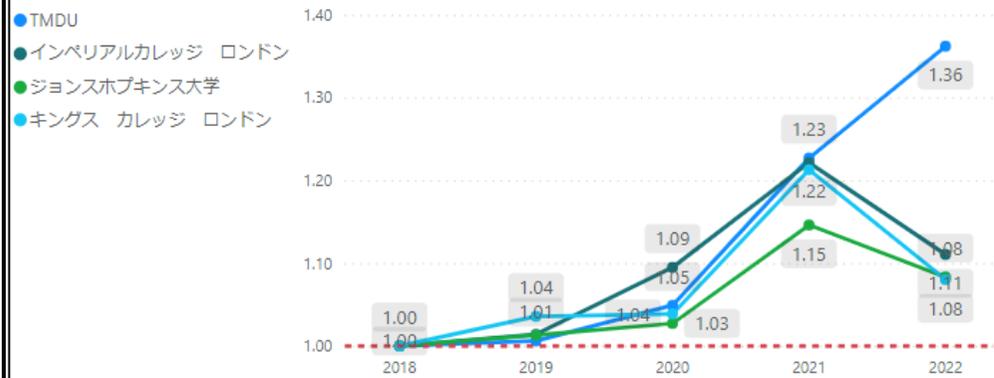
本学の国際共著論文数は2020年以降順調に増加しており、2022年は対2018年比で1.38倍となっている。また、本学のTop10%論文数も毎年順調に増加し、2022年は対2018年比で1.36倍となっており、両指標とも国際ベンチマーク大学（インペリアル・カレッジ・ロンドン、キングス・カレッジ・ロンドン、ジョンズホプキンス大学）と比べても高い伸び率である。

令和4年度に「創生医学」「難病・希少疾患」「口腔科学」を「重点研究領域」として設定し、異分野融合研究や若手研究者育成を促進したことや、前述した令和5年度における取組、今後の方向性の進捗により、今後も国際共著論文数やTop10%論文数が増加していくことが期待される。

国際共著論文数



TOP10%論文 (補正あり)



【卓越大学の教員としてはばたく若手研究者】※第4期目標値に向けて予定を越える進捗

今年度は、本学と同等以上の卓越大学へ教員として10名が転出した。また、若手研究者支援センター（YISC）を中心として、次世代研究者育成ユニット、重点研究領域、テニュアトラック、研究者交流会、現役ハーバード大学PIとの少人数形式セミナーに対して、研究助成・支援を行い、優秀な研究者の育成に貢献している。

○第4期目標達成に向けた今後の方向性

人材の循環は、日本全体として考えると研究者の職の安定につながることから重要なテーマと考えており、引き続き、優秀な研究者の育成に尽力していく。

指定国立大学法人構想における評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	25名
令和5年度までの累積値	27名

【ハブ海外協定校数】

※(3) 国際協働を参照

### (3) 国際協働

【ハブ海外協定校】※第4期目標値に向けて順調に進捗

「海外拠点の在り方検討会」にて検討を重ね、本学の海外拠点構想（北米から1校、欧州から2校、豪州から1校を候補として選定し、本学の海外拠点校として設置する）の方針について、令和5年6月26日開催の学長・理事懇談会にて大枠の了承が得られた。また、拠点構想の方針及び大学統合を踏まえた新大学としての拠点構想の検討を進め、大学として重要なパートナー機関選定のための協定校締結機関等のカテゴリー分類調査を全部局に対して実施した。その上で、各部局の国際交流担当教員により構成された「カテゴリー検討WG」を設置し、全学的な視点での方向性の確認を行った。

○第4期目標達成に向けた今後の方向性

本学の海外拠点構想を本学と東京工業大学で組織する「国際戦略WG」において検討し、重要機関や重点地域等、新大学における海外拠点の方針を形成する予定である。

#### 指定国立大学法人構想における評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	4大陸7校
令和5年度実績値	3大陸4校

### 【国際共著論文】

※(2) 研究力強化を参照

### (4) 社会との連携

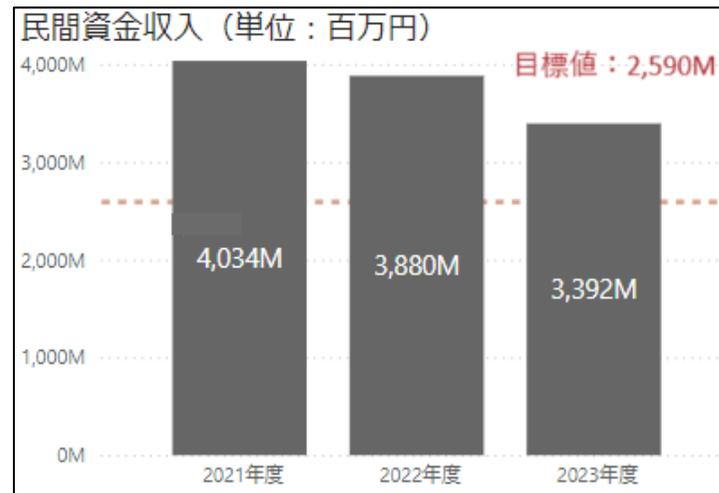
【民間資金収入】※第4期目標値達成済み

特許・MTA、治験、資産活用、共同研究、寄附金、基金等、民間資金に関連する各項目で増収に向けた取組を実施し、今年度は、第4期中期目標期間終了時目標値である約34億円（令和6年3月末時点）を達成した。

特に、資産活用では、12号館の建築完了により、貸付料収入が約5,537万円（対前年度比2.8倍）となった他、新型コロナウイルス感染症拡大による利用制限が解除されたことで、講堂等利用料収入が約1,760万円（対前年度比1.3倍）になる等、収入額が着実に増加している。

#### 指定国立大学法人構想における評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	22億円
令和5年度実績値（令和6年3月末時点）	34億円



参考：第4期中期目標・中期計画重要評価指標モニタリンググラフ

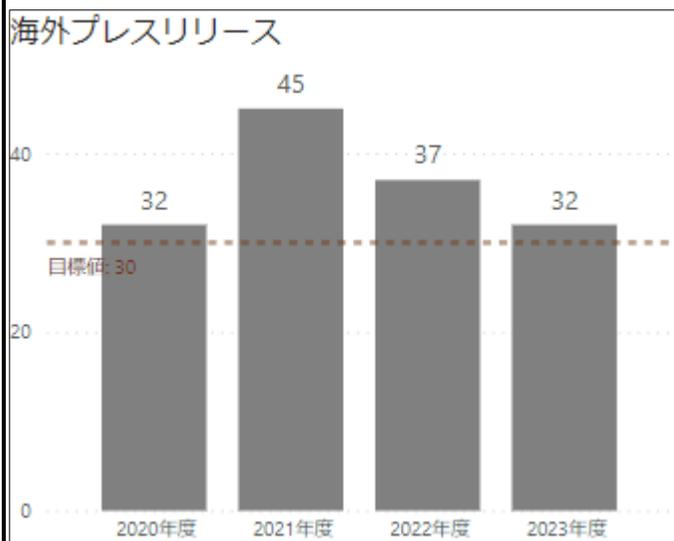
## (5) ガバナンスの強化

【海外向けプレスリリース】※第4期目標値達成済み

今年度の国際プレスリリースについて、科学プレスリリースのプラットフォームである EurekAlert!へ英文プレスリリースを投稿することで、投稿後にメディアに掲載された件数は32件（令和6年3月末時点）であった。これは、第4期中期目標期間終了時目標値を引き続き超える水準となっている。

指定国立大学法人構想における評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	30件
令和5年度実績値（令和6年3月末時点）	32件



参考：第4期中期目標・中期計画重要評価指標モニタリンググラフ

## (6) 財務基盤の強化

【基金の募金額】※第4期目標値に向けて順調に進捗

平成23年度に設立した大学基金は、総額13.7億円（令和6年3月末時点）を超えており、順調に基金額を伸ばしている。特に、令和5年度は、大学統合による本学への関心の高まりといった社会的機運の他、同窓会との連携による同窓生からの団体を指定した寄附や、相続セミナーを通じた募金活動、遺贈及び元患者からの寄附があった。これらにより、令和5年度は約3.0億円の寄附（令和6年3月末時点）があり、令和4年度を約8,500万円上回る寄附を受け付けることができた。

○第4期目標達成に向けた今後の方向性

東京工業大学と連携し、大学統合に向けた統合支援基金（仮称）の立ち上げを検討していく。さらに、医学部80周年（2024年度）および歯学部100周年（2028年度）についても各同窓会と連携し、引き続き検討をしていく。

指定国立大学法人構想における評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	17億円
令和5年度までの累積値（令和6年3月末時点）	13.7億円



参考：第4期中期目標・中期計画重要評価指標モニタリンググラフ

【大学発ベンチャー】※（1）人材育成を参照

## 1. 教育

【データサイエンス教育の拡充】※中期計画 評価指標 3-1-2、4-1-2 関連

データサイエンス人材育成プログラム博士人材コースの令和5年度受講者数は116名で、当該コースが開講した平成29年度受講者数が9名であったことを踏まえると増加の一途を辿っており、データサイエンス教育へのニーズが高まっていることを示している。このような状況を受けて、令和5年度にはデータサイエンス人材育成プログラム「応用編」の研修において「生成AIワークショップ」を新たに実施した。今後は、「大規模言語モデル」についても講義・実習を新規開講する予定であり、受講者の更なる増加が見込まれている。

学士課程においても、令和5年度から新カリキュラムを実施したことに伴い、AIやデータサイエンスを習得するための数理リテラシーを身につける「AI・データサイエンスのための数学」を新設した。

また、令和3年度に開講した「医療とAI・ビッグデータ入門」の演習時間を7コマから20コマへ大幅に増やし、大学病院の匿名化された臨床実習データを用いた演習内容へと充実させるとともに、単位数を1単位から2単位へと増やした。令和5年8月には、当該科目が数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を習得するための優れた教育プログラムであるとして、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」のリテラシーレベルプラスに認定され、科目修了生に対して同プログラム認定制度修了証を発行した。これにより、データサイエンス教育分野での本学の知名度向上が期待されるほか、将来的に保健医療分野におけるAI技術研究者の育成や、企業との共同研究によるAI技術開発を推進するための基盤が着実に醸成されている。



(図1：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」認定ロゴマーク)

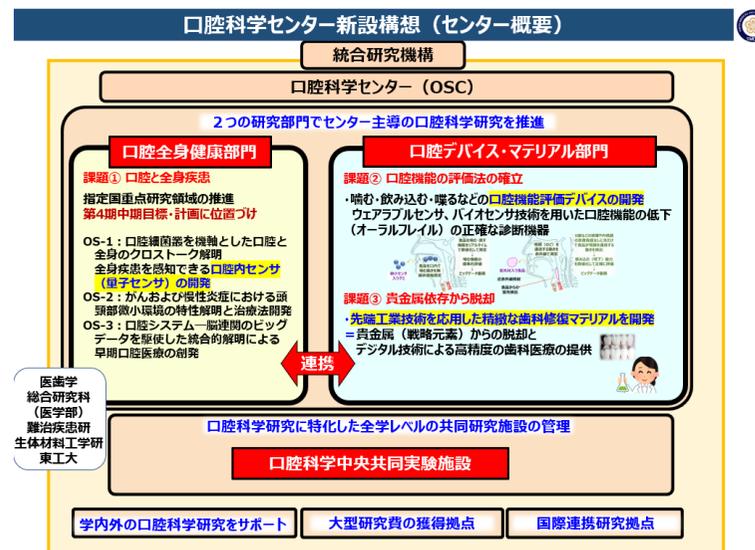
## 2. 研究

【口腔科学センター】※中期計画 評価指標 7-2 関連

医歯理工連携を基盤とし、口腔科学研究に特化した「口腔科学センター」を令和6年度に設立することを決定した。これまで本学歯学部を中心に推進してきた世界トップクラスの口腔科学研究を、全学レベルの共同研究施設に集約することで、分野横断的なマネジメントが可能となる。

同センターには、口腔と全身疾患との連関の解明及び口腔からの先制医療の発信を目的とする「口腔全身健康部門」と、口腔機能評価デバイスの開発及び貴金属依存から脱却した歯科修復マテリアルの社会実装を目的とする「口腔デバイス・マテリアル部門」を整備しており、令和6年10月の東京工業大学との統合により、工学系研究者との連携がさらに深まることが期待される。

斬新な口腔科学研究を推進することにより、健康長寿社会の実現という社会的要請に貢献する一方、同センターを拠点に企業との産学連携をより充実させることで、歯科産業界の活性化・国際競争力の向上に貢献することを目指す。



(図2：口腔科学センター構想概要)

【核酸・ペプチド創薬治療研究センター】※中期計画 7-2 関連

令和4年度に「核酸・ペプチド創薬治療研究センター（TIDE センター）」が開設された。本センターは、ヘテロ核酸医薬、mRNA デリバリー技術、クライオ電顕による構造ベースのペプチド設計といったフラッグシップ技術を用いて、中分子創薬ハイウェイを構築するための研究を推進しており、基礎医学、構造生物学、臨床医学、データサイエンス、核酸医薬、ペプチド化学、高分子工学、薬理学、薬物動態学、毒性学、製材学など、多岐にわたる専門分野の研究者が結集している。

令和5年7月26日には設立記念講演会を開催し、特別講演や患者の声に焦点を当てて、センターのビジョンを内外に広く発信することができた。また、東京工業大学の中分子IT創薬研究推進体（MIDL）との中分子創薬コンソーシアムの構想が、両大学の学長及び研究担当理事出席のもと発表され、令和6年10月の東京工業大学との統合により、工学系研究者との連携が一層深まることが期待されている。

TIDE センターは、創薬技術力を活かし、医薬品開発に直接貢献することを目指しており、特に患者のアンメットニーズに対応する新規医薬品の開発に注力している。

(図3：TIDE センター開設記念シンポジウムパンフレット)

東京医科歯科大学 TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY  
東京工業大学 Tokyo Institute of Technology

核酸・ペプチド創薬治療研究センター開設記念シンポジウム  
—中分子創薬コンソーシアム設立へ向けて—

日時 2023年7月26日(水) 12:30 - 14:45

会場 東京医科歯科大学M&Dタワー2階 鈴木章夫記念講堂

第一部：12:30-13:15  
開会挨拶 東京医科歯科大学学長 田中 雄二郎  
核酸・ペプチド創薬治療研究センター(TIDEセンター)紹介 横田 隆徳  
東京医科歯科大学 統合研究機構 核酸・ペプチド創薬治療研究センター長  
東京工業大学 中分子IT創薬研究推進体(MIDL)紹介 秋山 泰  
東京工業大学 中分子IT創薬研究推進体 代表  
中分子創薬コンソーシアム設立に向けて 古川 哲史  
東京医科歯科大学 理事・副学長

第二部：13:30-14:45  
招待講演 東京大学大学院理学系研究科教授、日本化学会会長 菅 裕明  
Ainylam Pharmaceuticals Senior Vice President Muthiah Manoharan

閉会挨拶 東京工業大学学長 益 一哉

東京医科歯科大学 〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45  
東京工業大学 〒152-8550 東京都目黒区大岡山2丁目12-1  
統括：核酸・ペプチド創薬治療研究センター開設記念シンポジウム事務局  
東京医科歯科大学統合研究機構 事務局 研究推進課 Email: kiban.adm@tmd.ac.jp

3. 医療

【TMDU 感染症センター】※中期計画 評価指標 11-1-1 関連

令和3年度に構築したグローバル感染症征圧プラットフォームの取組を発展させるかたちで、令和5年11月に「TMDU 感染症センター (TCIDEA)」が設立された。本センターは、臨床医学（統合臨床感染症学分野）、基礎医学（ハイリスク感染症研究マネジメント学分野）及び社会医学（感染症健康危機管理学分野）の各部門が、学内の各ブロックや国内外の専門家及び感染症対策ネットワークなどと連携することで、社会に必要とされる感染症対策を立案・発信することを目的としている。また、感染症対策に精通した人間性豊かで国際的な医療・保健人材を育成し、感染症に強い社会への貢献を目指している。

令和5年11月14日に開催された設立記念講演会は、医療従事者、アカデミア、国・地方公共団体、企業、学生等の計92名が参加し、特別講演やパネルディスカッションを通して、本センターのビジョンを学内外に広く示すことができた。今後、グローバル感染症征圧プラットフォームの取組がより一層活発化することが期待される。

(図4：TMDU 感染症センター設立記念講演会ポスター)

TMDU 感染症センター  
設立記念講演会  
2023年11月14日 火  
14:00 ▶ 16:15  
東京医科歯科大学 M&D タワー鈴木章夫記念講堂

総合司会 先沢 和子  
東京医科歯科大学 TMDU 感染症センター 副センター長 (社会医学部門)

開会挨拶  
東京医科歯科大学 学長 田中 雄二郎  
東京工業大学 学長 益 一哉

TMDU 感染症センターについて  
東京医科歯科大学 TMDU 感染症センター センター長 (臨床医学部門) 眞 芳明

特別講演  
ネクストパンデミックを数理情報科学との融合視で防ぐ  
東京医科歯科大学 M&D 分子科学センター AIシステム医科学分野 教授 清水 秀幸

パネルディスカッション  
TMDU 感染症センターに期待する取組 - 感染症に強い社会への実現 -  
辻井 正深 厚生労働省 政策総長  
藤田 孝司 東京大学 感染症学 教授  
賢栄 漢夫 東京大学 (東京大学感染症センター) 学長  
藤田 隆彦 国立感染症研究所 所長  
大曲 貴夫 国立国際医療研究センター 国際感染症センター センター長  
眞 芳明 東京医科歯科大学 TMDU 感染症センター センター長 (臨床医学部門)  
宮内 寛博 東京医科歯科大学 TMDU 感染症センター 副センター長 (基礎医学部門)

閉会挨拶  
東京医科歯科大学 理事・副学長 古川 哲史

東京医科歯科大学 理事・副学長 古川 哲史

東京医科歯科大学 東京工業大学  
〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45 〒152-8550 東京都目黒区大岡山2丁目12-1  
統括：核酸・ペプチド創薬治療研究センター開設記念シンポジウム事務局  
東京医科歯科大学統合研究機構 事務局 研究推進課 Email: kiban.adm@tmd.ac.jp

## 4. 国際

### 【Techcracker Lab の開催】※中期計画 評価指標 2-1-5 関連

令和6年3月11日に、本学と香港のベンチャーキャピタル Horizons Ventures との共催で、スタートアップイベント「Techcracker Lab」が日本で初開催された。

本イベントは、若い世代の革新と企業家精神を促進することを目的としており、ゲノム編集技術 CRISPR-Cas9 の画期的な開発により、令和2年にノーベル化学賞を受賞した Dr. Jennifer A. DOUDNA 氏をはじめ、医学生や大学教授から博士号を有する起業家へと転身した5名による講演が行われた。

同イベントは、国内外から700名を超える参加登録があり、会場となった本学湯島キャンパス鈴木章夫記念講堂が満席になったほか、YouTube Live からの参加者も112名あり、多くの学生や若手研究者から130を超える幅広いトピックに関する質問や投稿が集まった。

各登壇者のビジネスに関する経験談や、研究に関するアイデアを共有することで、参加者の学びや気づきに繋がる非常に貴重な機会となった。



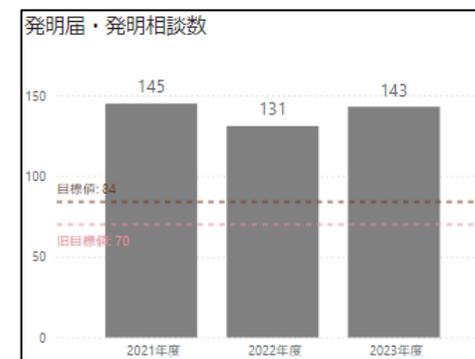
(図5: イベント当日の様子 )

## 5. 産学連携

### 【発明届・発明相談数】※中期計画 評価指標 2-1-3 関連

学内共同研究の加速により、今後の発明届・発明相談数の更なる増加が見込めるため、第4期中期目標期間終了時目標値を年間70件から、年間84件へと上方修正した(令和6年3月25日文部科学省認可)。

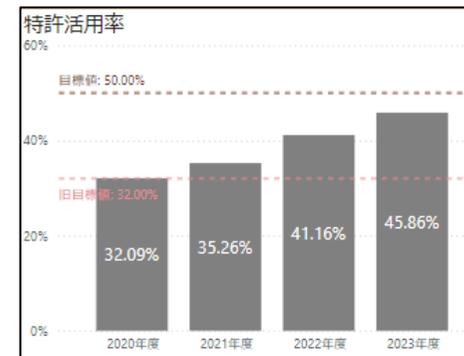
また、令和5年度においては、ヘルスサイエンス R&D センター (HeRD) との連携により AMED 事業の研究成果に関する相談が増加したことや、若手研究者を対象とした発明相談の新規開拓を進めたことにより、令和5年度時点で変更後の目標値を大幅に上回っている。



### 【特許活用率】※中期計画 評価指標 2-1-4 関連

医療情報等の知的資産を対象としたイノベーション活動や、「組織」対「組織」の大型連携の推進、プロジェクトに適応した柔軟な産学連携形態の導入等、イノベーション創出のための多様な仕組みを展開していることから、特許活用率の更なる向上が見込めるため、第4期中期目標期間終了時目標値を32%から、50%へと上方修正した(令和6年3月25日文部科学省認可)。

また、令和5年度には知財評価メンバーの見直しを行い、出願段階から導出の可能性を検討する体制を整備した。活用可能性の高い知財管理が推進されることにより、特許活用率の向上が期待される。



【医療データ社会還元システム】※中期計画 評価指標 1-3-2 関連

医療におけるビッグデータ構築に向けて、データ利活用及び社会へ還元するため、広範同意取得に係る体制を整備した。令和5年1月より歯系診療部門にて、同年3月より医系診療部門にて広範同意取得を開始し、これまでに25,000件（令和6年3月時点、医系・歯系延べ数）を超える同意を取得している。

また、広範囲のデータベースの構築・分析や共同研究の促進を目的として、関連病院や茨城県厚生農業協同組合連合会とのデータ連携について検討を進めており、研究計画書の更新、関連病院でのデータ収集を踏まえた問診票の検討、及び本学とのデータ連携システムの導入準備を進めている。

加えて、データ収集にあたり、電子カルテの重点入力項目の検討を行い、関連病院等を含めた共通の診療項目を取得するためのコアセット問診について検討及び精査し、企業との共同開発により iPad を用いた問診票システムを開発した。令和6年3月時点で、コアセット問診は11,500件、各診療科問診（4診療科）は1,460件を実施している。

その他、企業等との医療データ利活用のプロジェクトを円滑に立ち上げ推進する体制構築のため、アンケートの実施等により企業ニーズの分析を行いながら、本学の所有する医療データのショーケースを作成し、HPで公開した。また、学内での広範同意を取得したデータの利活用推進の一環として、「医療データイノベーションチャレンジ」を実施し、学内から研究事例の提案の募集・審査を行い、研究の実施に向け、取組を進めている。

医療データ社会還元ワークグループ

## 医療データイノベーションチャレンジ

～RWDが拓くヘルスケアの未来～

対象：本学の広範同意取得データ（医療ビッグデータ）を用いた研究

締切：2024年2月11日(日)

応募資格：学内研究者（学生は除く）

支援費・採択件数：総額500万円・10件程度（1件50万円程度）

エントリーはこちら

説明会&セミナー：医療データ活用事例紹介セミナー（仮）

コンテストの開催概要・応募方法等の説明の他、東京大学衛生学分野 石川俊平教授・東京医科歯科大学M&Dデータ科学センター高橋 邦彦教授による医療データを活用した研究事例をご紹介します！

詳細は[こちら](#)をご覧ください

問合せ先：総合イノベーション機構 産学連携第一係 jinbu-sanren.adm@ed.ac.jp

(図6：医療データイノベーションチャレンジパンフレット)

6. 社会連携

【四大学連合】※中期計画 評価指標 9-2-1 関連

東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学及び本学からなる四大学連合では、異なる組織・異なる専門領域の研究者が自由に議論できる土壌を育み、四大学ならではの自由で緩やかな連携の在り方を社会に発信している。令和5年度は、コロナ禍で加速した社会のデジタル化を受け、急速に台頭しつつある生成AIについて自由に意見交換をする場として、「リレートーク“生成AI”」を企画した。本企画では、生成AIについて各回にトークテーマを設け、研究者や学生に自身の立場から、感じる事・考える事について自由に意見交換し、次回対談者へ質問を考えバトンを繋ぐ形式で行った。令和6年3月までに異なる組織・異なる専門性の学生同士、教員同士で各6回の対談を実施した。

各回の概要は以下のとおりである。

開催回	テーマ
教員第1回	この1年、生成AI時代の中で感じている変化について想像してください。5年前の自分に「今XXXが起きている」と伝えるなら、何を伝えたいですか？（東京医科歯科大学×一橋大学）
教員第2回	生成AIの登場は、言語の壁やエンジニアリングデザインにどんな影響を与えるのでしょうか？（東京外国語大学×東京工業大学）
教員第3回	目の前の人を救う医学の視点、自国を守る安全保障の視点——生成AIの活用と規制（東京医科歯科大学×東京外国語大学）
教員第4回	膨大な言語のデータベースから生まれる生成AI——情報の真偽と少数言語への影響は（東京外国語大学×一橋大学）
教員第5回	多様な学習データベース——人間的に思考・行動するAIの開発（東京医科歯科大学×東京工業大学）
教員第6回	生成AIと人の共創-クリエイティビティとフェイクニュース（一橋大学×東京工業大学）

開催回	テーマ
学生第1回	この1年、生成AI時代の中で感じている変化について想像してください。5年前の自分に「今XXXが起きている」と伝えるなら、何を伝えたいですか？（東京外国語大学×一橋大学）
学生第2回	生成AIを何に使っていますか？Googleの延長線？AIではなくて人間にできることって何だと思いますか？（東京医科歯科大学×東京外国語大学）
学生第3回	「人間がやるからこそ意味のある仕事」とは？（東京医科歯科大学×東京工業大学）
学生第4回	AIが人間の仕事をすべて肩代わりできたら、人間は幸せになるでしょうか？価値観はどう変化すると思いますか？（東京医科歯科大学×一橋大学）
学生第5回	AIの発展とともに社会が調和的に発展するために、テクノロジーや政治経済にはどんなことができるでしょうか？あるいはAIの発展と共に競争が進むのでしょうか？（東京外国語大学×東京工業大学）
学生第6回	AIの開発や使用に関して、どんな法律やルールが必要でしょうか？（東京工業大学×一橋大学）

この他にも、四大学で多様なイベントを開催している。具体的には、それぞれの大学の特色ある授業科目を提供する「複合領域コース」の実施、医療サービスに関わる社会的ニーズや医療管理及び医療政策の分野において指導的立場で活躍する人材の養成を図るMMA（Master of Medical Administration）コース、学術研究の最前線をレクチャーする「文化講演会」を実施しており、多様な学生やステークホルダーを対象とした学際領域、複合領域の研究教育の推進を行っている。

## 7. 管理・運営

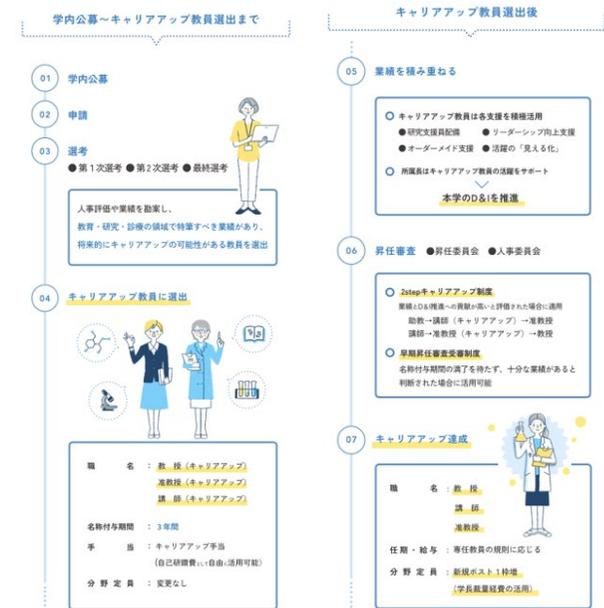
### 【女性教員のキャリアアップ】※中期計画 評価指標 8-1-3 関連

本学女性教員のキャリアアップを促進するための取組として、「女性上位職登用制度」を令和3年度より実施しており、これまでに28名のキャリアアップ教員の登用を行っている。登用された教員のうち、「教授（キャリアアップ）」の者は令和5年4月1日付で2名であった。

令和5年度には、大学として女性上位職を積極的に登用するため、人事委員会主導による女性教授の採用や、テニュアトラックポストにおける女性限定公募を実施した。また、十分な業績を有する者や、D&I (Diversity & Inclusion) 推進への貢献度が高い者を対象とした「2step キャリアアップ制度」「早期昇任審査受審制度」を実施して、制度の拡充を行った。令和5年度に実施したキャリアアップ教員の正式昇任審査においては、受審した7名の教

員全員の正式昇任（令和6年4月1日付）が決定した。また、女性上位職登用制度を活用して上位職に着任した女性研究者等の活躍をメッセージ動画（My Career Story）として発信することで、「見える化」を実施している。

その他に、女性活躍促進を射程に入れ、令和5年5月25日付で学長が「男性職員の育児休業等推進宣言」を表明し、男女共同参画の意識啓発を図っている。



（図7：キャリアアップ教員登用フロー）

【デジタル化の推進】※中期計画 評価指標 16-1-1 関連

令和5年度は、本学におけるデジタル化を推進するにあたり、以下のことを実施した。

事項	内容
ChatGPT 導入	事務職員の文章作成や翻訳等の業務で活用し、業務効率化に資することを目的として、ChatGPT の試験導入を行った。結果、事務業務全般で広く活用されて、業務の「質の向上」「負荷軽減」で効果的であったことから、令和6年度は全学的に試験導入の対象を広げることとなった。
デジタル歯学教育	デジタルデンティストリーの普及に応じた教育体制を整備するため、実習指導を行うことができるように学内の整備を整えることで、デジタル歯学教育の標準化に繋げた。
電子ラボノート	研究におけるペーパーレスに向けた取組として、電子ラボノートの試験導入を行った。研究活動の一層の推進を目的としており、令和6年度に問題点や有効性の検証を実施する。
研究データの受け渡し	研究室間のデータ受け渡しを簡便化するため、スーパーコンピュータ SHIRAUME を活用して、共用の研究スペースで得られた実験結果を各研究室で受け取ることができるようにして、データアクセスへのハードルを下げる事ができた。
入学書類	入学手続書類を Web 化し、令和6年度入学者から利用できるように体制を整備した。令和6年度に効果を検証するが、データの発生源入力、受験生及び入試業務を担当する職員双方の負担を軽減し、情報管理の効率化と正確性の向上が期待される。